



高校部活動の思い出

東 周平 先生(バレーボール部)

私はバレーボールを中学生のときに始め、高校・大学・大学院と計12年間続けてきました。現在は熊商バレーボール部の顧問としてバレーに、そして高い目標を持ち部活動に取り組む彼女らに関わることができ非常に充実しています。

さて、そんな私の高校バレーの経験をお話しようと思います。高校バレーの思い出は一生の思い出になります。私は高校1年生の冬から公式戦に出場し、先輩方と共に県ベスト8という目標を達成することが出来ました。一緒にプレーした先輩方が引退された後、私は主将としてチームをまとめていくことになりました。しかし、残ったメンバーは5人で廃部の危機、そして顧問の先生はバレー未経験の方でした。部員は勧誘活動を続けたおかげで、何とか1人が入部してくれたのですが、6人のうち2人は初心者でした。やはり勝負の世界は厳しいもので、このような状況ではなかなか思うような結果は残せませんでした。ただ最後の1年間、勝つために自チームの短所を克服できるような練習メニューだったり、反対に長所を伸ばせるようなメニューを自分たちで考え実行した練習の日々はとても充実していて、練習試合や公式戦で少しでもその成果を発揮できたときはものすごく嬉しかったし、達成感を味わったのを覚えています。大学でも他県で県ベスト4、8に入った経験のあるような人たちと対等にバレーができたのも、置かれた環境にめげず練習を続けた成果なのだろうと思います。高校のチームメイトとは社会人になった今でも連絡をとり、ご飯を食べに行くことがあります。そのとき、「高校のときは～なことがあったね。」と他愛もない話をしながらする食事の時間がすごく楽しいです。こんなに盛り上がるのも高校バレーを全力でやりきったからだと思っています。熊商生は部活動に関して非常に恵まれた環境にいると思います。心の底から羨ましいです。専門の指導をしてくださる顧問の先生がいて、切磋琢磨できる仲間がいて、応援して下さる保護者の方々もいます。自分の置かれた環境が当たり前ものではないということに肝に銘じ、部活動を引退するとき、高校を卒業するときに達成感を味わえるよう、「今を大切に」熊商生としての日々を送ってほしいです。熊商でみんなに関わる者として応援しています。



豪快にスパイクを決める東先生(背番号1)

脇本 将吾 先生(陸上競技部)

私は高校時代、陸上競技部で主に中・長距離に取り組んでいました。(3000m障害)選手としての実力・実績ははっきり言って全くなかったのですが、ただただ走ることが好きで、走ることが楽しくて毎日走っていたような思い出があります。私の高校はあまり強い陸上部でもありませんでしたが、それでも1人1人が目標を持ち、自分より強い選手をライバル視して日々練習を積み重ねていくような、今思えばとても良い環境でした。

そのような部の環境や長距離走そのものを通して、「目標を持って行動すること」「何事も粘り強く取り組むこと」などを学びました。部活動であれ勉強であれ仕事であれ、すぐに結果が出たり目標が叶ったりすることはまずありません。そうした中でも、焦らず腐らずしっかり目標を見据え頑張ることで、力が付き自信になり、より目標へと近づくことができます。皆さんも、なかなか思うように行かず苦しい時があると思います。無理はもちろん禁物ですが、思うように行かなくても「目標を持って」「粘り強く」取り組むことで活路を見出してほしいな、と思います。

